

教会学校 教案ガイド

教師メモやメッセージアウトラインを読む前に必ずディボーションをしましょう。

1. みことば

祈りながら今週のテキスト(聖書箇所)を何度も繰り返し読んでください。また、今週の暗唱聖句を決定して、覚えましょう。

2. 主題の読み取り

今週のみことばの中心テーマを自分のコトバで、1つの文章にまとめて書きあらわしましょう。

例 ○:イエスさまは、弟子たちがイエスさまを救い主と信じるように
カナで奇跡を行いました。(×:カナの婚礼と奇跡)

3. 教えられたこと

今週のみことばを通して、神さまがあなたに語ってくださったことを書きあらわしましょう。

4. メッセージの作成

◇「教師ノート」と「メッセージアウトライン」を参考にしてください。

◇注意深く聖霊さまの導きに従いましょう。

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 教会教育部

教会の働きのためにご自由にお使いください。営利目的での使用は禁じます。
すべての内容の著作権は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教会教育部にあります。

教師ノート

| | |
|--|---|
| 週課 | 第三年 第九課 第一週 |
| 単元 | 基本的な教理・4 |
| テーマ | 教会ってすてき・1 |
| タイトル | イエス様に集められた人たちの教会 |
| テキスト | エペソ1:3-14 |
| 参照箇所 | マタイ 28:19-20、ヨハネ 15:16、Iコリント12:27、エペソ 1:3-14、2:19-22、3:20-21、4:11-16、Iペテロ 2:1-9 |
| 暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) | エペソ1:4、ヨハネ 15:16 |
| AG 日曜学校教案参照箇所 | |
| <p>□導入</p> <p>教会にみなさんはどのように来ましたか。お友達に誘われた人、家族が教会に行っている人、いろいろなきっかけで教会に来ます。聖書にはみなさんは神様によって集められたと書かれています。</p> <p>☞教会学校には、親がクリスチャン、友達に誘われてきた子供たち、自分で興味を持って来た子供たち・いろいろな子供たちがやってきます。それぞれの子供たちに「どのような理由で教会に来るようになったか」を聞いてみるのもよいでしょう。どのような導かれ方であっても、だれもがイエス様の選びによって教会に来ている(ヨハネ15:16)のです。</p> <p>☞子供たちに「神様に助けられた、導かれた等」の証しをしてもらいたいでしょう。</p> <p>□ポイント1 私たちはイエス様に選ばれたからすてきです</p> <p>エペソ1:4を見ると、「世界の基の置かれる前から私たちは選ばれている」ことが書かれています。1:5には「愛をもってあらかじめ定められた」と書かれています。ですから私たちは、愛されており、神様の計画として、もっとも良いときに、この地上に誕生したのです。偶然生まれたのではないのです。</p> <p>☞神様は完全なお方ですから、失敗はないことを注目させましょう。失敗の無い神さまによって、選ばれた両親の元に、それぞれの国と時代の中で、一人ひとりに合った能力を与えられて、私たちは生まれていることを伝えましょう。私たちは一人ひとりが価値のある存在です。これは創造主を信じてはじめて理解できる価値観です。人間は偶然生まれたという考えでは、人間が尊いという価値観は出てきません。</p> <p>□ポイント2 私たちはイエス様に集められたからすてきです</p> <p>私たちはイエス様によって集められました。このお方は十字架にかけられ、殺され、3日目によみがえられた、まことの神様です。2000年前から今も変わらずイエス様は私たちを招き続けてくださっているのです。</p> <p>エペソ 1:10 には「時が満ちて、キリストにあって一つに集められる」と書かれています。私たちは神様の計画によって、教会に集められたのです。それは、自分たちが集まりたいから集まったのではなく、イエス様が招いて、集めてくださったのです。素晴らしいことですね。私たちの人生には神様の計画があるのです。そして集められた人々が教会なのです。建物ではありません。</p> | |

また 1:11 には「御国を受け継ぐもの」になったと書かれています。私たちは教会に集められ、一緒に天国に行くことができますのです。

☞ 私たちが、イエス様の身体である教会に集められたのは、一人ひとりに神様の計画があり、目的があります。そのことが子供たちの価値観となるように、導いてください。

□ポイント3 教会ってすてきです

教会では、何をするのでしょうか。考えてみましょう。(子供たちに発言させてもよいでしょう)
クリスチャンは、天国に行くだけが目標ではありません。神様のみ言葉を一緒に学んで、神様の願いや基準を知ることを通じて、正しいことが分かる大人、人々に役に立つ大人になるのです。

また一人では、成長することは出来ません。一緒に助け合って(組み合わせられて)成長できるのです。(エペソ 4:16)

神様は、計画によって一人ひとりを教会に集められました。教会に集められた一人ひとりには神様の計画があるのです。この計画は、みんなが協力する時に、進めることができます。

☞ 教会の最大の目的は、イエス様のことを伝え、弟子を育てることです(マタイ 28:19-20)。
教会学校やイベントにお友達を誘う、お友達の救いのため、子供たちができることをともに考え、実行できるように祈りましょう。子供たち一人ひとりも、大切なイエス様の働きを託された身体の一部なのです。

☞ 参考「教会の働き」(聖書の教理:マイヤー・パールマン P260-262)

1 救いを伝える、2 礼拝の手段を設ける、3 信仰の交わりを備える、4 道徳水準の維持

☞ 参考「教会の使命」(組織神学:ヘンリー・シーゼン P708-714)

1 神の栄光を現すこと、2 教会全体の徳を高めること、3 教会全体をきよめること、4 会員を教育すること、5 この世に伝道すること、6 この世において制御力、啓蒙力の役を果たすこと、7 すべての善を促進すること

□結論 教会はイエス様に選ばれ、イエス様に集められた人たちです。教会は、一緒に神様の言葉を学び、神様の喜ばれることをして、一緒に天国に行くのです。

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

皆さんは偶然教会にきたと思っているかもしれませんが、教会に来たことは偶然ではありません。イエス様の計画なのです。宇宙がつくられる前から、みなさんはイエス様に選ばれていたと聖書には書かれています。そしてみなさんは愛され、一緒に天国に入ることができるように教会に集められたのです。世の中は悪い人や悪い考えがたくさんありますが、聖書を学んでいたら、神様の願うことがはっきりわかるようになります。そして神様の計画をすすめることができます。

教 師 ノ ー ト

| | |
|----------------------------|--|
| 週課 | 第三年 第九課 第二週 |
| 単元 | 基本的な教理・4 |
| テーマ | 教会ってすてき・2 |
| タイトル | 教会で助け合うことのすばらしさ |
| テキスト | Iコリント12:12-27 |
| 参照箇所 | Iコリント12:21-31、エペソ1:22-23、4:11-12、ヨハネ15:12 |
| 暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) | Iコリント12:27 or ヨハネ15:12 |
| AG 日曜学校教案参照箇所 | |
| □導入 | <p>わたしたちの体は、頭の考えたとおりに動きますよね。なわとびでも、みんなで協力すると上手くできます。イエス様は教会を助け合うようにつくられています</p> <p>☞今回は教会で助け合うことのすばらしさです。「教会のかしらはイエス様」と聖書が語るように、教会はイエス様の願いを進める共同体です。そしてイエス様は、私たちが「互いに愛し合うこと」を願っておられます(ヨハネ15:12)。今回は互いに愛し合い、助け合う“教会にとって最も大切なこと”を学びます。このことを理屈として学ぶだけでなく、子どもたちが教会の実生活として学ぶことができるように、教師は留意しましょう。</p> |
| □ポイント1 ちがう人が一つになれるってすてきです | <p>生まれた国がちがっても、国籍や皮膚の色や言葉がちがっても、クリスチャン同士は、協力できます。そして違いがあっても不思議な一体感を持つことができます。また国の指導者であっても、普通の市民であっても「兄弟姉妹」として関わるができるのです。なぜなら、私たちは天国に国籍を持つ天国人ですし、天国では神様のもとで、国籍も言葉も地位も越えて神の家族として生活するようになるからです。このことは素晴らしいことです。</p> <p>☞外国から日本にやってきたクリスチャンは、日本でも毎週教会で礼拝します。それは国が違っても、教会はイエス様の身体であり、集まる時に神様の恵みを体験できるからです。</p> |
| □ポイント2 みんなに役割があるってすてきです | <p>教会のかしらはイエス様です。そして私たちはイエス様のからだの一部分であり、私たちは共同体としてつながっているのです。足や耳が「からだに属さない」といっても不可能なように、私たちはイエス様のからだにそれぞれ属しているのです。</p> <p>神様が御心によって、からだにそれぞれの器官を作られたように、神様は私たちの個性や能力をつくり、教会に集めてくださったのです。話すのが上手な人、手先の器用な人、やさしい心を持っている人…みんな神様から特別な能力を与えられているのです。ですから自分の能力を人と比べて、自慢をしたり落ち込む必要はありません。あなたにはあなたしかできない特別な力(役割)が与えられているのですから、それを発見し、用いれば良いのです。</p> <p>☞最近、「ナンバーワンではなくオンリーワン」という言葉をよく聞きます。しかしこれは「神様の作品として作られた」ということを理解してはじめて言うことができます。一人ひとりの力を認めて上げてください。子供たちの力を励ましてあげましょう。</p> |

□ポイント3 互いに助け合うってすてきです

「みんなに役割がある」ならば、みんなが大切な人たちです。イエス様にあって一人も必要のない人はいません。

たとえ私たちに弱いところがあっても大丈夫です。弱さがあるから私たちは助け合うことができるのです。弱さがあるからこそ、愛し合い、助け合う経験ができるのです。それによって私たちは神様の愛の素晴らしさを学びます。

また、私たちの能力は、誰かを助けるためのものです。自己満足ではなく、他の人のためにあなたの価値が発揮されます。

互いに助け合って、私たちは愛し合う教会になるのです。これこそがイエス様が最も願っておられることです。

☞教会学校でイベントをする時、いろいろな役割があります。受付・ゲーム係・お話しする先生・・・みんなのできることを一緒に協力する時に、良いイベントができるのです。

☞海外で働く宣教師がいますが、その宣教師を支えるたくさんの方がいるのです。献金を捧げる人、祈る人、応援に行く人・・・それぞれの役割をすることによって宣教の働きが前進するのです。

☞I コリント 12:25「からだの中に分裂がなく」・・・コリント教会に存在する分派を意識した表現。歴史を通じて教会はいつも課題を抱えつつ、働きを進めているのです。

□結論 教会のかしらはイエス様、私たちは教会の一部です。いろいろな人と助け合って、神様の喜ばれる教会になるのです

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

同じ家族でも、一人ひとり違いますよね。教会や学校のお友達も、みんなそれぞれ違います。神様は一人一人を大切な存在として造られました。音楽のできる子、スポーツができる子、比べなくてもいいのです。みんなが協力して、自分の得意なことで他の人を助け合うことが神様の願いなのです。みんな役割が違います。神様は弱いところが大切だ、とおっしゃいますから、弱さがあっても大丈夫です。たがいに助け合って、神様が喜ばれる教会になりましょう。

教師ノート

| | |
|----------------------------|---|
| 週課 | 第三年 第九課 第三週 |
| 単元 | 基本的な教理・4 |
| テーマ | お祈りってスゴイ・1 |
| タイトル | 求め続けたら与えられる |
| テキスト | マタイ 6:8-13(または 9-13) |
| 参照箇所 | マタイ 6:8-13、7:7-11、ルカ 11:9-13、ヨハネ 15:7、ヘブル 10:36、1ヨハネ 5:14 |
| 暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) | マタイ 7:7 |
| AG 日曜学校教案参照箇所 | |

□導入

お父さんやお母さんが家にいないとき、携帯があれば、困った時に電話をかけて、助けてもらうことができます。同じように祈りは神様に携帯電話をかけるようなものです。ではどんなふうに神様とお話しをしたら良いのでしょうか。

☞何人かの子供たちは、祈りがかなえられた経験を持っています。それを発表させることも一案です。祈りが特別なことではなく、日常生活であることを理解させてください。

☞ある教会の男の子は、ある日、ゲームのために貯めていたお金を教会の特別なことのために献金をしました。数日後、雑誌を読んでいた時、欲しかったゲームが懸賞に出ていることをして、「神様、もし御心ならこのゲームを当ててください」とお祈りをしました。しばらくすると当選の通知が来て、賞品が届けられたのです。(実話です)

□ポイント1 神様にお祈りをしましょう

父なる神様は、私たちを子供として見て下さっています。父なる神様は、良い神様ですから、必ず私たちの祈りを聞いてくださるのです。イエス様は、天の父なる神様は「お願いする前から私たちの必要なものを知っておられるお方(マタイ 6:8)」と教えてくださいました。

そして、これが大切ですが・・・神様は「私たちを助けようとされています」そのことを信じてお祈りをしましょう。神様は「求めるものには良いものを下さるお方(マタイ 7:11)」なのです。

☞マタイ 7:11 の並行記事であるルカ 11:13 には、「求める人たちに、どうして聖霊を下さらないことがありません」と記述しています。

□ポイント2 祈りはどのようにきかれるのでしょうか

神様は「求めるものには良いものを下さるお方(マタイ 7:11)」ですから、私たちを助けようとされています。祈るとすぐにはかなえられる祈りがあります。しかし時間のかかる祈りもあるのです。ですから祈りの答えをもらうまでにはあきらめずに祈り続けることが大切です。「約束のものを手に入れるために必要なのは忍耐です(ヘブル 10:36)」と聖書も教えています。また、的外れな祈りをする時に、神様が一番良いことをされますから、私たちが願うことと違う結果になることもあるのです。

☞ある小学生の女の子は、明日学校のいく前の日、学校の上靴が見つからなくなって泣きそうになりました。お父さんが「お祈りしてごらん」と言われたので、必死にお祈りをしたら直後に、上靴が見つかりまし

た。神様は素晴らしいです。

☞「待ち続ける祈りの例」イザヤ 27:20-32には、神様のヒゼキヤへの言葉が書かれています。「アッシリアからの侵略の結果、2年間は十分な収穫に恵まれないが、3年後には豊かな祝福がある」

☞神様の願いとは違う祈り(的外れな祈り)とは何か、生徒達に発言させても良いでしょう。(人を困らせる祈り、自己中心的な祈り)そして神様が悪い祈りに対して、どのような答えられるかを考えさせると良いでしょう。

(例)ヨナ書を見ると、ヨナの願いとは違うことへと、神様が導かれたことが分かります。

□ポイント3 イエス様は祈り方を教えてくださいました

主の祈りは、祈りの模範ですが、ここでは3つを学びます。①神様をあがめ感謝の祈りをする(私たちが愛し、いつも助けてくださっている主を、ほめたたえ感謝の祈りをすることは大切です。)②毎日の必要を祈ります(私たちには毎日たくさんの必要がありますから、遠慮をせずに具体的に神様にお願いします。神様に助けてもらうことは大切です)③人をゆるす祈りをします(人をゆるして、はじめて神様の前に赦しを求め、近づくことができるのです。神様の喜ばれる心で祈ることが大切です)

☞主の祈りは、神への呼びかけで始まり、神をあがめる3つの祈りと、人間の必要を願い求める3つの祈りからなり、頌栄で終わります。

「あがめる(6:9)」…尊敬し、礼拝し、感謝し、神様のおことばに従うことです。

「日ごとの糧(6:11)」…ご飯やパンや必要のすべてを神様は心配してくださっています。

「負い目(6:12)」…当然支払うべきものを支払わないこと。罪の現実を指します。

「赦し(6:14-15)」…赦しのことが特に述べられるのは、主の祈りの中で互いに赦しあうことの必要性が特に強調されていることを示します。人を赦す心なしに自分の罪を赦し求めて神の前に出ることはできないからです。

☞注意…ここでは3つのポイントだけを触れました。主の祈りは大変内容の濃いものです。限られた時間内に、子供たちにすべて話すことは不可能です。この単元での目標は、子供たちがお祈りの素晴らしさを知り、祈ったら神様は答えてくださることを学ぶことです。主の祈りを通じて、祈りのヒントをつかんで欲しいと願っています。ですから子供たちの受け取れる分量を良く見極めて、話す量を調節し、細かい部分に入り過ぎないように、留意して下さい。「祈れば答えられる」のテーマを意識して話して下さい。

□結論 父なる神様は良い神様ですから、祈り続けたならば、かならず答えてくださいます。あきらめずに祈り続けましょう。

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

皆さんは神様にお祈りをしたことがありますか。すぐ聞かれる祈りもあれば、時間のかかる祈りもあります。どんなときも神様はあなたの祈りを聞いてくださっています。しかしもし祈ってもすぐにあきらめてしまったらどうでしょうか。神様がせっかく祈りに答えようとされていも、それに気がつかないなら、残念ですね。ですから、あきらめずに祈り続けましょう。そして神様の答えを聞きましょう。祈りはバージョンアップします。ゲームでも最新バージョンが強力ですね。イエス様は祈り方を教えてくださいました。神様のため私たちのため、最新のバージョンで祈りましょう。

教師ノート

| | |
|---------------------------------|---|
| 週課 | 第三年 第九課 第四週 |
| 単元 | 基本的な教理・4 |
| テーマ | お祈りってスゴイ・2 |
| タイトル | 本当の祈り |
| テキスト | ルカ 18:9-14 |
| 参照箇所 | Iサムエル 16:7、Iコリント 1:26-29、ピリピ 2:3、ヤコブ 4:6、Iペテロ5:6 |
| 暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) | ルカ 18:14b or Iサムエル 16:7b |
| AG 日曜学校教案参照箇所 | |
| □導入 | |
| | 「お友達があなたに何かをお願いするとき、えらそうにお願いしたらあなたはどう思いますか。神様はここを見ておられます。どんなところで祈ると神様は喜ばれるでしょうか。イエスさまがたとえ話で教えて下さっています。」 |
| | ☞人は姿を見ますが神様は心を見ておられることを生徒たちに伝えましょう。(Iサムエル 16:7)誰も気がついていなくても、神様はすべて知っておられることを子供たちに気づかせてください。 |
| | ☞「祈る前から知ってくださる神様(マタイ6:8)」「隠れたことを見ておられる神様(マタイ 6:18)」 |
| □ポイント1 パリサイ人は神様にお祈りをしました | |
| | 人はすべて罪人ですから、自分は正しいと思いがちです。自分の欠点はなかなか気がつかないものです。パリサイ人は「自分は正しいと思っている典型例」です。表面的には聖書の教えを守り、断食をしています、ところは神様から離れていたのです。 |
| | ☞パリサイ人のことを学ぶ時に「他人事」で終わらせないように留意してください。私たちは誰もがパリサイ人ようになりがちなのです。そのことに気がつくことができるように導いてください。自分の罪に気がつかなければ、悔い改め(方向転換)をすることが出来ませんから。 |
| | ☞「パリサイ人とは」・・・パリサイ派の最大の特徴はその厳格な律法主義にある。彼らは律法を厳格に解釈し、それをできるだけ忠実に実行しようとした。彼らの律法解釈はやがて複雑な体系となり、「父祖の伝承」として口伝を形成するようになる。反対者たちは、これを「律法に垣根を巡らす者」として非難した。彼らは儀式律法的なきよめをさまざまな形で実行した(マコ7:3-4)。彼らは、このような儀式的きよめの律法を守らない者を「地の民」(アム・ハアレツ)と呼んで軽蔑した。新約時代のユダヤ教の中には、エッセネ派やクムラン宗団のような厳格派がほかにも存在したが、主イエスの宣教において最大の敵となったのはこのパリサイ派の律法主義であった(マタ23:25)。 |
| □ポイント2 取税人も神様にお祈りをしました | |
| | 取税人は「自分が神の前に正しくないこと」を知っていました。それは自分が人々にしていた悪いことに気がついていたからです。そしてすべてを見ておられる神様に心から「赦して欲しい」と求めたので |

す。このようなへりくだったところを神様は喜ばれるのです。

☞自分のしてしまったことを悪いことだと気がつかない子がいます。その子には、善悪の基準がないのです。

☞自分の過ちに気づいている子もいます。取税人は自分が人をだましていたことに気がついていました。人から見られていなくても、良いことも悪いことも父なる神様は見ておられることに気がつくように導いてください。

☞自分のしてしまった悪いことをごまかす子もいるでしょう。神様が見ておられ、すべてをご存じであることを知らせることが大切です。悪いことをごまかす人よりも、認めて謝る人のほうが正しく強い人なのだと伝えましょう。そして素直に謝る人が神様に喜ばれます。

☞「取税人とは」取税人は正規の官吏ではなかった。彼らはしばしば不正を働いたために、罪人(マタ9:10-13)、遊女(マタ21:31)、異邦人(マタ18:17)と同一と見なされた。主イエスは、人々に忌み嫌われていた取税人をも救い、彼らと共に生活されたのである(マタ9:9-13、マコ2:13-17、ルカ19:1-10)。

□ポイント3 イエス様は取税人の祈りが本当の祈りだと言われました

イエス様は取税人が義(正しい)と言われました。取税人は自分が罪人であることを認め、正直に言い表しました。このようなへりくだった祈りが本当の祈りなのです。立派な言葉で祈ることではありません。「神様は身分を低くする人を高くしてくださるお方(1ペテロ5:6)ですから、たとえ上手く言葉で祈れなくても、心からへりくだった正直な祈りを、神様は喜んでくださるのです。

☞[証し]一人のお友達は、小さいときから教会に行きましたが、罪が良くわかりませんでした。ある日、自分よりも勉強のできる親友が引っ越すことを知りました。彼女は親友が引越してしまう悲しみよりも、「自分の成績の順位が一つ上がる」ことを喜んでしまったのです。その時、自分はなんて悪い人間なんだろうと気づき、悲しくなりました。そんな時イエス様の言葉「わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです(マタイ9:13)」が心にスーッと入ってきて、自分の罪が赦されることを体験し、主に感謝を捧げたのでした。

□結論 神様にお祈りをするときには、こころから正直にへりくだってお祈りしましょう

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

皆さんのまわりにいつもいばっている人はいますか。自分は立派だと、人を見下している人はいますか。いくらその人ができない人と比較して自分が立派だと思っても、それ以上の人が来たら、かたんにその自慢するところ(自信)はなくなってしまう。イエス様が一番のお方ですから、イエス様の前でいばることはできません。神様を見上げると、自分の罪が分り、へりくだることしかできません。しかし正直に、自分の罪を告白して神様に近づこうとする人を神様は高くしてくださるのです。そしてそういう人のお祈りを神様は喜んでくださるのです。